3.すべての人に健康と福祉を

薬学部長主催特別講演会「世界の創薬の現状と日本の課題―産業からの視点―」開催

2025年6月4日、芝共立キャンパスにて、中外製薬株式会社名誉会長（元代表取締役社長）・慶應義塾評議員の永山治氏をお迎えし、薬学部長主催特別講演会「世界の創薬の現状と日本の課題―産業からの視点―」を開催しました。

講演では、永山氏から世界の創薬の現状と日本の医薬品産業の課題、それに対する中外製薬株式会社の取り組みが紹介され、学生・教職員ら115名が熱心に耳を傾けました。続くROUND TABLE DISCUSSION「不確実な時代を生き抜くために、今何をすべきか?」では、キャリアや研究の意義について活発な意見交換が行われました。



講演する永山氏

体験型ワークショップ「未来の介護テクノロジーを考えよう!」を開催

2025年8月6日、殿町タウンキャンパスは、世界最先端の研究開発拠点キングスカイフロントにおいて開催された小学生対象の体験型イベント「第11回 キングスカイフロント夏の科学イベント2025」に参画し、企業4社との協働により、小学校高学年向けワークショップ「未来の介護テクノロジーを考えよう!」を実施しました。参加した児童は、ゲームを通して身体動作を読み取るセンサー技術、血液中の物質を外から測定する技術、脳からの指令として出る微弱な生体信号をキャッチすることで病気やけがによる歩行困難者が意思にあわせて動くことのできる技術、歯の神経を再生させ健康な歯に戻す歯髄再生治療技術、眼鏡に映像を映すことで長時間のテレビやパソコンの視聴が困難な高齢者や身体の不自由な人も楽しむことができる技術などの最先端テクノロジーを体験し、発見した課題の解決に向けたアイデアを提案しました。

APRU第29回年次学長会議出席、「人類の長寿とその課題」について議論

2025年6月22日～6月24日、米国・サンディエゴで開催されたAPRU（The Association of Pacific Rim Universities:環太平洋大学協会）第29回年次学長会議に、伊藤塾長および土屋大洋常任理事が出席しました。会議には、APRU加盟大学の学長ら120名以上が集い、「Human Longevity in a Changing World: Innovation, Education, and Leadership for a Resilient Future（変化する世界における人類の長寿:イノベーション、教育、そしてレジリエントな未来のためのリーダーシップ）」をテーマに、人類の長寿とそれに伴う社会的・科学的課題について活発な議論が交わされました。

パネルディスカッション「AI and Longevity: Global Challenges and International Research Collaboration（AIと長寿:グローバルな課題と国際共同研究）」では、伊藤塾長がモデレーターを務め、高齢化研究の最前線をいく百寿総合研究センターの取り組みを紹介するとともに、グローバルな課題解決における国際連携の重要性を訴えました。



パネルディスカッションの登壇者　（写真提供:APRU）

シンポジウム「パブリックヘルス（公衆衛生）の現代的課題を考える」開催

2025年7月1日、三田キャンパスにて、X Dignityセンター主催シンポジウム「パブリックヘルスの現代的課題を考える」を開催し、産業界、官公庁、学術機関、民間団体など多様なセクターから90名を超える参加者が集まりました。シンポジウムでは、SNS利用が子どもの心身の健康に与える影響や国内外における規制・法的紛争の現状、地球環境と人間の健康を一体的に捉える「プラネタリーヘルス」をテーマに、研究者、行政関係者、医療・政策分野の専門家が意見を交わしました。分野を超えた対話を通じて、健康、情報環境、地球環境をめぐる課題に対し、領域横断的な連携を深める重要性を共有する機会となりました。

「DWIH東京シンポジウム:高齢化社会を支えるイノベーション」を共催

2025年10月7日、三田キャンパスにて、ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京（DWIH東京）主催による「DWIH東京シンポジウム:高齢化社会を支えるイノベーション」をケルン大学と共催しました。日独の大学、政府、企業から多くの専門家が集い、健康的な高齢化に向けた革新的な解決策や国際連携について活発な議論が交わされました。伊藤塾長は、国際的かつ学際的な研究拠点として国内外で高い評価を受けている百寿総合研究センターにおける活動や慶應義塾が加盟している日英パートナーシップ「RENKEI」での実績を挙げ、高齢者、特に100歳以上のセンテナリアンに焦点を当てた慶應義塾の多面的かつ複雑な研究への継続した取り組みを紹介しました。パネルディスカッションやポスターセッションでは、高齢化社会が直面する課題への解決策や国際連携戦略について意見交換が行われました。



ポスターセッションの様子

2025年度藤沢市民講座「誰もが自分らしく暮らせるまちへ:藤沢発・共生社会のつくり方 ―看護医療学部開設25周年に向けて―」開催

2025年11月、湘南藤沢キャンパス（SFC）にて、2025年度藤沢市民講座を開催しました。本講座では、「医療的ケア児や障害のある方、自宅療養者が地域で暮らし続けるための支援」、「孤独・孤立の予防に向けて善行団地を舞台に看護学と社会学の視点から進められてきた地域参加型研究（CBPR）」、「地域福祉の視点から『社会的つながり』がもたらす影響」などを全3回にわたって取り上げました。藤沢市や地域の福祉・看護関係者と共に、誰もが自分らしく暮らせる協生社会の実現に向けて連携して取り組む意義を考える機会となりました。

ワークショップ「最先端の医療機器でリアルな医療体験を!」開催

2025年8月2日、予防医療センターにて、第2回「最先端の医療機器でリアルな医療体験を!」ワークショップを開催しました。本取り組みは、医学的知見を社会に還元し子どもたちに学びの場を提供することを目的に、麻布台ヒルズが実施するサマープログラム「ヒルズ・ワークショップフォー・キッズ 2025」の一環として開催されたものです。昨年に引き続き、中学生を対象に本物の医療機器に触れる体験学習の機会を提供しました。

当日は、医師や看護師、技師に加え、医療系学部生の救命救急措置法普及活動サークル「KAPPA（Keio ACLS Popularizing and Promoting Association）」所属学生の指導の下、内視鏡検査、超音波検査、一次救命処置（AED等）の体験学習を行いました。参加した中学生からは「医療への興味がとても湧いた」「AEDの実際の使い方が学べて良い機会になった」といった声が寄せられました。

予防医療センターでは、今後も健康や医療への理解を深める次世代教育活動を継続していきます。



胸骨圧迫とAEDによる一次救命処置の実践

市民公開講座「がんの薬物治療はここまで進化した!最新のがん薬物治療 ～がんになる前に、なった後も知っておきたいこと～」開催

2026年1月18日～1月25日、薬学部は市民公開講座「がんの薬物治療はここまで進化した!最新のがん薬物治療 ～がんになる前に、なった後も知っておきたいこと～」をオンデマンド配信にて開催しました。本講座では、がん研究会有明病院院長補佐・薬剤部長の山口正和氏を講師にお迎えし、最新のがん薬物療法の現状と、治療効果を高めるうえで重要となる早期発見につながるがん検診の意義について取り上げました。最新の医療知識を深め、自身や家族の健康管理について考える機会となりました。

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議から提出された提言の中から審査を経て採択されたものは、学生が主体となる「塾生会議プロジェクト」として具体化され、様々な活動へと発展していきます。

料理教室プロジェクト

ひとり暮らしによる孤食や、外食が増えた学生へ栄養バランスのとれた健康的な食生活を促すため、履修登録科目には無い「家庭科」として調理を学ぶ場を提供するプロジェクトです。「共に調理し共に食べる」体験を通じた学生同士の交流による心身の健康サポートだけでなく、規格外野菜の活用や無駄を出さない調理方法の習得による環境配慮・フードロス削減も目指しています。

料理教室は、2025年6月11日、11月4日、2026年1月14日の計3回、株式会社グリーンハウス（https://www.greenhouse.co.jp/）の管理栄養士のご協力の下、日吉キャンパスで実施し、延べ71名の学生が参加しました。手軽で実践的なメニュー調理に加え、食材の知識やアレンジ法も学べる内容とし、好評を博しました。また、2025年11月にはさらに、「食のSDGs」をテーマとしたトークイベントも開催し、3名の登壇者に「ビーガン向け和食」について講演していただきました。



料理教室ポスター


調理を行う学生

地方学生プロジェクト

SDGsゴール10「人や国の不平等をなくそう」の理念に基づき、地方出身生への支援を通じて、慶應義塾における学生の多様化を推進するプロジェクトです。

「地方出身×ひとり暮らし」の学生を主な対象とし、入学前後や大学生活における不安を軽減するためのソフト面での支援を実施しています。「2030年までに地方出身生の割合を40%まで回復させる」ことを目標とし、多様な背景を持つ学生同士の交流や議論を促進することで、新たな価値の創出や社会課題の解決につながる環境づくりを目指しています。

2025年3月19日と3月27日、地方出身の新入生が入学前に抱える疑問や不安を解消することを目的として、オンラインでの入学前交流会を開催しました。在学生による、実体験を踏まえた大学生活やひとり暮らし事情などの話を聞けるほか、新入生同士や在学生と交流できる機会となりました。

また、2025年4月2日～4月4日の3日間、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」の協力の下、夕食を無料で提供する「よる食堂」イベントを開催しました。「地元愛を伝えよう」「ひとり暮らし自炊問題解決」などのテーマを設定し、不安を抱える入学直後の地方出身の新入生が交流できる場を設けました。

さらに、健康面や精神面、交友関係等ソフト面での包括的支援を目的としたデジタルパンフレット「Unlimited Vol.3」も昨年度に引き続き作成し、入学前交流会や「よる食堂」参加者に配布しました。


よる食堂の様子


Unlimited Vol.3